

令和8年度 第1回静岡市中央卸売市場開設運営協議会 会議録

1 日 時 令和8年9月15日（火） 午前11時00分～12時30分

2 場 所 静岡市中央卸売市場 管理棟4階 大会議室

3 出席者 【委員 11名】

清水農業協同組合	常務理事	季高	一志
静岡県中小企業団体中央会	経営支援部長	押尾	昌俊
しずおか市消費者協会	監事	松永	和子
静岡産業大学	名誉教授	佐藤	和美
公益財団法人流通経済研究所	常務理事 主席研究員	折笠	俊輔
静岡V F株式会社	代表取締役社長	関原	秀夫
三共水産株式会社	代表取締役社長	杉田	安隆
魚市静岡魚市株式会社	代表取締役社長	大川	知弘
静岡市青果仲卸協同組合	理事長	赤井	毅
静岡市中央卸売市場水産仲卸協同組合	理事長	平野	繁
静岡青果物商業協同組合	理事長	望月	健一郎

【事務局 幹事1名】

静岡市経済局商工部中央卸売市場	参与兼市場長	佐藤	征教
-----------------	--------	----	----

【事務局 書記8名】

静岡市経済局商工部中央卸売市場	参事兼市場長補佐	水野	智之
静岡市経済局商工部中央卸売市場	業務係長	大原	史明
静岡市経済局商工部中央卸売市場	施設係長	柳原	健人
静岡市経済局商工部中央卸売市場	施設係主査	飯田	紘生
静岡市経済局商工部中央卸売市場	業務係主任主事	木村	亘
静岡市経済局商工部中央卸売市場	総務係主任主事	瀧浪	太介
静岡市経済局商工部中央卸売市場	総務係主事	池ノ谷	尚樹
静岡市経済局商工部中央卸売市場	総務係主事	片瀬	健太

4 欠席者 【委員4名】

静岡県経済農業協同組合連合会	みかん園芸部部長	川村	芳利
静岡県経済産業部農業局農業戦略課	課長	平野	亮
静岡県経済産業部水産・海洋局水産振興課	課長	鈴木	基生
静岡市水産物商業協同組合	理事長	伊藤	公雄

5 議事経過

1 開会

2 新委員の委嘱

3 報告事項

(1) 令和8年度 事業計画の進捗状況について

4 意見交換

(1) 令和9年度 事業計画の策定に向けて

5 閉会

6 会議内容

《開会》

【事務局 瀧浪主任主事】

定刻になりましたので、ただ今から令和8年度 第1回静岡市中央卸売市場開設運営協議会を、開会いたします。司会進行を務めます静岡市中央卸売市場 総務係の瀧浪です。

本日は、お忙しい折り、当協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。会の開催に先立ちまして、本日は、静岡市経済局次長兼商工部長の福地が市議会9月定例会経済消防委員会のため欠席となりましたので、静岡市中央卸売市場長の佐藤より、挨拶申し上げます。

【佐藤市場長】

皆様、こんにちは。市場長の佐藤でございます。

委員の皆様には、日ごろより市場の業務運営につきまして、ご理解ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。また、お忙しい中を、協議会にご出席いただきまして、重ねてお礼申し上げます。

さて、当市場は、今年で開設50年を迎えました。これまでの間、場内の事業者様をはじめ、関係の皆様とともに、良質な生鮮食料品の安定供給に努めてまいりましたが、50年が経過した当市場の施設や設備に関しましては、ご覧のとおり、老朽化が著しいことから、今後の市場機能の維持などにつきましては、多くの課題を抱えております。静岡市といたしましては、そのような課題への対応を図るため、現在、我々開設者事務所だけではなく、商工部を中心に関連部署で組織した、静岡型食と農システムプロジェクトチームにおきまして、食に関連する課題などとともに、当市場の今後のあり方につきましても、検討を重ねているところであります。

本日の協議会はお手元の次第にあるとおり、皆様への報告事項と、来年度の事業に関しまして、ご意見等をお伺いする機会にしたいと考えておりますので、委員の皆様には、それぞれのお立場から、ご意見やご提案などを、ご発言いただければと思っております。それでは、最後まで、よろしくお願いいたします。

【事務局 瀧浪主任主事】

続いて、今回、人事異動等で新しく委員になりました方をご紹介しますので、その場で一

言ご挨拶をお願いいたします。清水農業協同組合常務理事 季高一志様、静岡県中小企業団体中央会経営支援部長 押尾昌俊様、静岡県経済産業部農業局農業戦略課課長 平野亮様、平野様は本日ご欠席です。静岡県経済産業部水産・海洋局水産振興課課長 鈴木基生様、鈴木様も本日ご欠席です。委嘱状の交付は省略させていただきまして、お手元にあらかじめ置かせていただいております。なお本日は、平野様、鈴木様のほか、静岡県経済農業協同組合連合会みかん園芸部部长 川村芳利様、静岡市水産物商業協同組合理事長 伊藤公雄様が欠席となっております。

次に、本日の会議資料のご確認をお願いします。①次第、②委員・幹事名簿、③席次表、④資料1「令和8年度 中央卸売市場事業会計（事業計画）」、⑤資料2「令和7年度 中央卸売市場事業会計（事業報告）」、⑥資料3「令和8年度 静岡市中央卸売市場 事業計画執行状況」、⑦資料4「令和9年度 事業計画の策定に向けて」、⑧資料5「（仮称）静岡型フードプロセスシステム構想（素案）の概要」、⑨資料6「静岡市中央卸売市場の目指す姿（素案）」、⑩令和8年度版 静岡市中央卸売市場のあらまし、以上10点ですが、不足等ございましたら、お申し出ください。よろしいでしょうか。

本日は、委員15名のうち11名の出席となっており、会議の開催要件である過半数を満たしていますので、静岡市中央卸売市場業務条例施行規則第74条第2項の規定により会議は成立しています。なお、当市におきましては、「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づきまして、附属機関の会議は原則として公開することとなっていますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。傍聴する方がいましたら宜しくをお願いいたします。

早速議題に移ります。それでは、佐藤会長、議事進行をお願いします。

【佐藤議長】

ありがとうございました。次第に従い議事を進めてまいります。

3 報告事項、令和8年度 事業計画の進捗状況について、事務局より説明願います。

【事務局 瀧浪主任主事】

資料1をご覧ください。こちらは、令和8年度の事業計画となります。上段の表のとおり、歳入歳出予算としましては、7億1,340万円となっております。内訳及び主な事業は中段以降の記載とおりですが、下段歳出の網掛けの事業につきまして、この後資料3で事業の進捗状況を説明させていただきます。続きまして、資料2をご覧ください。令和7年度の事業報告、決算の見込みとなります。事業の取り組み内容につきましては、2月の会議でご紹介させていただいておりますが、その時点では完了予定などであったものも予定どおり完了いたしまして、上段の表に記載のとおり、歳入が6億8,621万円余、歳出が6億7,311万円となっております。こちらの決算内容につきましては、市議会9月定例会において承認をいただく予定でございます。資料1と資料2の説明は以上です。

【事務局 水野市場長補佐】

総務係の水野です。続きまして、ページをめくっていただいて資料3をご覧ください。令和8

年度静岡市中央卸売市場事業計画執行状況、8月末現在ということで、各事業の説明をいたします。まずは総務係所管の一般管理事業からです。こちらにつきましては、市場機能を維持するため、市場事業の運営に係る庶務的経費、市場の光熱水費及び市場協力会等に対する負担金を支出するものでございます。予算額2億7,700万円余に対して、執行額が1億1,800万円余、執行率が42.9%となっております。ページめくっていただいて資料3の2枚目に、今後の市場のあり方検討事業ということで、令和8年度予算額といたしましては、1,000万円となっております、執行額は624万円余、執行率が62.4%となっております。今後の市場のあり方検討事業につきましては、大きく二つの柱でできておりまして、攻めの戦略に基づく実証事業等実施業務と下段にございます事業者持続化推進事業補助金の2本立てとなっております。まず、攻めの戦略に基づく実証事業等実施業務につきましては、昨年度、人手不足の解消に向けた求人情報の発信であるとか、産地および運送事業者との連携による中継輸送化など、場内事業者様の身近な問題に着目し、問題解決を図るとともに、短期的な成果を導き出すことによる成功体験を実証する取り組みを実施してきたところでございます。今年度につきましては、今現在検討中ではございますけれども、青果部において、市場間取引におけるやりとりにおいて、データを連携して、業務の効率化を図ろうという取り組み、水産物部において、ふるさと納税への出品を進めているところでございます。また、この取り組みを横展開していくために、場内勉強会というものを開催しておりまして、今年度全4回を開催予定でございます。第1回は6月8日に既に開催済みでございまして、再整備後の市場の取り組み事例ということで、農経新聞の宮沢社長にご講演をいただいたところでございます。第2回の9月、すみません、資料では18日となっておりますが17日です。9月17日につきましては、流通のマーケット動向ということで予定ではございますが、勉強会を開催する予定でございます。第3回、第4回につきましては、未定でございますけれども、今後、実証事業の取り組みを経て、場内事業者の皆様に向けて横展開を図っていきたいと考えております。二つ目の事業者持続化推進事業補助金につきましては、今現在の申請の受付状況について簡単に記載してございます。冷蔵機能付き配送トラックの冷機修繕、また業務用冷蔵庫導入によるチルド食材安定供給体制構築、フォークリフトの増車による荷役業務効率化と、こういう形で今現在申請を受けているところでございます。総務係所管の事業について、説明は以上になります。

【事務局 柳原施設係長】

施設係の柳原と申します。続きまして、1ページめくっていただきまして、私の方からは施設管理運営事業について説明いたします。まず、令和7年度の予算額につきましては2億1,225万6,000円、決算額につきましては2億765万9,830円で執行率は97%となっております。令和8年度予算額ですが2億4,186万円、現時点の執行額ですけれども、1億8,936万7,281円でございます。この施設管理運営事業に関しましては、市場の維持管理という面で予算を計上して、執行しております。設備の保守点検費用ですとか、簡易的な小破修繕というものであります。主な支出は下にございますとおり、委託料は、場内警備業務ですとか、機械設備の保守点検を実施して

おります。予算額は1億5,321万4,000円となっております。執行額も概ね執行しているような状況で1億4,477万円余となっております。小破修繕になりますが、令和8年度の予算額につきましては6,000万円を計上しておりまして、現在までに2,381万4,000円余を執行しております。小破修繕に関しましては、下に内訳を記載しています。建築は漏水とか雨漏りがあった時の修繕を行います。土木については、場内の道路の舗装の修繕等に充てさせていただいています。電気・通信については電気設備・通信設備の修繕、照明は電気照明になります。冷蔵庫・空調につきましては場内の冷蔵庫や空調設備、衛生設備に関しましてはトイレなどの修繕をいたします。消防に関しましては、非常用の消防設備の修繕を実施しているところです。ページめくっていただきまして、施設整備事業になります。こちらは小破修繕というものより大規模で計画的に予算をつけて修繕していくようなものになっております。令和7年度につきましては、予算が7,500万円で決算額が7,302万9,000円を執行しています。令和8年度は少し予算が下がりました4,800万円で、現在までに3,500万円余を執行しております。今年度実施している主な修繕を説明させていただきます。金額的に大きいものが、青果棟南側低温卸売場冷蔵設備2・3号機取替修繕で、青果棟に設置されている生鮮食料品を低温管理するための冷蔵設備です。設置後26年が経過して老朽化が進んでおり、青果棟の北側と南側に各3室で計6室設置されているものを、令和6年度から毎年度2室ずつ更新しまして、今回で設備更新が完了するものでございます。続きまして、積算電力量計取替修繕は法定で取り替えなければならないものとなっておりますので、毎年法定期限が切れるものを順次取り替えております。汚水処理場調整槽揚水ポンプ修繕、こちらの方もだいぶ耐用年数が経過しておりまして、揚水ポンプの部品の劣化等が見られましたので修繕を実施します。工業用水流量計取替修繕に関しましても、流量計の耐用年数等がありますので、修繕を実施します。最後に汚水処理場調整槽送風機取替修繕で、修繕をしなければ汚水処理が滞ってしまうため、主に市場の機能が滞らないようなところの修繕をメインに実施をさせていただいているところでございます。

【事務局 大原業務係長】

業務係の大原です。私の方からは、ページめくっていただきまして、業務係所管の5業務管理事業について説明させていただきます。令和7年度の予算額につきましては524万5,000円、決算額につきましては266万3,000円余で執行率は50%。令和8年度予算額、執行額につきましては、記載のとおりになっております。本事業につきましては、取引等の市場業務の適正化を図るために、条例に基づいた指導及び監督などを行うとともに、当市場への地域理解の促進に向けた開放型市場への取り組みをより深化させるものとなっております。主な業務といたしましては、記載のとおりですが、仲卸業者への支援、取扱実績の把握、取引等の監督を挙げております。

(1) 仲卸業者への支援につきましては、経営診断を10月から12月の中旬の実施予定となっております。個別相談につきましては、その後1月中旬から2月中旬の実施予定であります。

(2) 取引等の監督につきましては、条例に基づく立入検査が主なものとなっております。卸売業者への立入検査につきましては、10月中旬を予定しております。仲卸業者への立入検査につき

ましては、2月を予定しております。次に、開放型市場への取り組みですが、まず市場まつりにつきましては、再来月の11月15日の日曜日に開設50周年事業としまして開催予定です。皆様におかれましてはご参加くださるようお願い申し上げます。次に、市場見学並びに料理教室につきましては、実施済みのものも含めまして、記載のとおり開催または開催予定となります。料理教室につきまして10回開催予定となっておりますが、年度当初は11回開催の予定でした。記載はないのですが、6月に開催を予定していたものが台風の影響で中止となっております。業務係の説明につきましては以上となります。

【佐藤議長】

ありがとうございました。さて、ただいま令和8年度事業計画の進捗状況について説明をいただきました。何かご質問、ご意見等ございますか。

では、私から2点ほど伺います。施設整備についてお話がありました。今、限られた収入の中で整備していくのは大変なことだろうと思うのですが、再整備を目前に控えて、今どれぐらいのスパンで施設整備の計画というものあるのでしょうか。

【事務局 柳原施設係長】

今までは、市の計画上は大体10年とか、15年のスパンで何をやるかということを決めて、主に冷蔵設備ですとかを修繕してきたわけなのですが、市の方針としましても、再整備の検討を進めている中で、例えば冷蔵庫を取替えたとなると、その後20年ものか、実はその間に再整備があるのかということなど、それが過大な投資とならないかと予算執行も注意しなければならず、今まで10年とか15年の計画の中でやってきたものを、一旦、1年ごとに切り替えて、そのときの状況で修繕をするものを選択しております。とはいえ、基幹設備のような市場の運営に影響が出るものは、優先的に修繕をさせていただくという形で、その都度予算計上させていただいているという形になっております。

【佐藤議長】

1年ごとの計画というのは、これだけ大きな施設を維持していくという意味では非常に不安定だなというように感じます。そういった意味では、再整備でどのような整備をしていくということをある程度踏まえながら、新しく取り入れた機器などをそのまま使っていけるような、そういう見通した整備計画というものを再整備が目前に迫ってはいても、持っていただけたらというように、個人的な希望でもありますけれども思いました。

もう一点ですが、市場見学というものが毎年行われていますが、大体どれぐらいの頻度で、どれぐらいの年齢の子ども達が参加していますか。

【事務局 大原業務係長】

市場見学につきましては、夏休み期間から10月ぐらいまでを対象としています。市場の役割

を知っていただくとか、市場自体を知っていただくという大事な事業だと思っていますので、年間を通して行えるのかどうか、そのためには場内の事業者さんの協力というものも必要になりますので、そういったところの検討を重ねなければならないというところではあります。年齢層につきましては、親子を対象にするものから、一般公募のものがありますので、小学生から 60 歳、70 歳の方もいらっしゃいますので、幅広い方々に対しての啓発が行われていると思っています。

【佐藤議長】

ということは、小学校の授業の計画の中に組み込まれているというような、そういう形ではないのですね。

【事務局 大原業務係長】

現状ですと違います。東部生涯学習センターとコラボして、夏休み期間に生涯学習センターの方で募集していただいた方に市場に来ていただくということは 2 回ほどあるのですが、学校のカリキュラムの中に入れてということではありませんので、今後、そういったことも検討していきたいと考えております。

【佐藤議長】

ありがとうございます。他にございませんか。

【折笠委員】

市場の一般管理事業、施設管理運営事業、施設整備事業について、佐藤議長もおっしゃっていたところなのですが、50 年経って、老朽化が進んでいることに加えて、全てのコストが上がっていると思います。例えば、冷蔵庫にしても、トイレの手洗い台ひとつとっても、たぶん 50 年前とか、それこそ 3 年前の値段でも全然違うと思います。これは今回ここで云々というよりは、やはりある程度再整備に向けていく中で、市としても物価高騰に対応する形での予算組み、最終的には市議会や市のご判断になると思うのですが、ぜひ市場の開設の皆様からも物価高騰を考慮した形での予算組みを市議会や本庁の方に上げていただきたいと思います。

【佐藤議長】

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

はい、では次に参ります。今度は次第の 4 意見交換、令和 9 年度の事業計画の策定に向けてについて、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局 瀧浪主任主事】

今回会議を開催させていただいた 9 月は、事務局の方で来年度、令和 9 年度の事業計画策定に

取り掛かる時期でございます。そこで、委員の皆様から令和9年度や今後の市場に関してご意見などを伺えればと思い、意見交換の議題を設けさせていただきました。ご意見などを伺う前に、参考といたしまして、現在静岡市においてや、事務局において行っている今後の市場に関する取り組みについてご紹介させていただきたいと思います。

【事務局 飯田主査】

施設系の飯田です。よろしくお願いします。静岡市の中央卸売市場の目指す姿ということで私から説明させていただきます。資料4につきましては、資料5、6の説明文ですので、後日、お目通しいただければと思います。資料5を参照ください。静岡市では、現在、産業政策課、中央卸売市場、学校給食課、農業政策課から構成される食と農システムプロジェクトチームにおいて、静岡型フードプロセスシステムの構築に取り組んでいます。具体的には、食の安定供給と持続可能性の確保に向け、地域における生産、加工、流通、消費を一体的に繋ぐとともに、農業、市場、物流、学校給食などの関連分野を相互に連携させ、これまで分断されてきた機能を横断的に統合することで、地域全体の最適化を図る供給システムの構築を目指しています。この中で、静岡市中央卸売市場では、市場施設の再整備に当たり、施設の老朽化への対応だけでなく、将来にわたって収益性が高い選ばれる市場であり続けるため、加工機能、物流機能を市場内に集積することで、新たな付加価値を生み出し、市場全体の競争力を高めていくことが必要だと考えています。続きまして、静岡市中央卸売市場の目指す姿について説明します。資料6をご覧ください。左側に示しますとおり、市場の現状と課題としましては、1 担い手不足、2 取扱量の減少、3 施設の老朽化・機能の陳腐化、4 物流の非効率性が挙げられます。特に2番目の取扱量の減少については、人口減少をはじめ、消費者ニーズの変化や市場経由率が低下する中、2020年から2025年の5年間で、静岡市の人口は約3%減少した一方、青果・水産の取扱数量はともに約20%減少していることから、人口減少を大きく上回るペースでの減少となっています。また、東京・名古屋などの大規模市場への集荷が増加傾向にあるとともに、出荷においても、加工やパッキング対応まで実施する加工機能を有した大規模市場から供給される傾向にあるため、静岡市中央卸売市場は、産地、出荷先の両面から選ばれない市場となっています。これらの課題から、このままでは静岡市中央卸売市場の存在意義が低下し、持続的な発展が困難な状況となっています。また、単に施設を建て替えるだけでなく、新たな機能を加え、市場そのものの価値を高めていくことが重要だと考えています。このような現状と課題から、市場の方向性として、市場再整備では、単に老朽化した施設を更新するだけでなく、産地・販売先から選ばれる市場となることを目指し、市場機能の強化を図ることを基本的な考えとしています。そのためには、従来から市場が担ってきた集荷・分荷機能を加工機能や物流機能へ活かし、新たな付加価値を生み出す市場へ転換していくことが必要と考えています。選ばれる市場を目指す上で基盤となるのがコールドチェーン化です。市場全体で適切な温度管理を徹底し、温度情報を可視化することで品質や鮮度、安全性を確保する環境を整えます。付加価値の創出としましては、加工機能を導入することで、カットや下処理、包装、冷凍などの商品加工が可能となり、高付加価値化や多様なニー

ズへの対応が期待できます。加えて、物流機能を強化することで、共同配送や保管機能の充実、物流ネットワークの構築が可能となり、物流コストの削減やリードタイムの短縮、新たな販路開拓が期待されます。右側をご覧ください。これらの方向性を踏まえ、市場の目指す姿としましては、単なる取引市場ではなく、品質・衛生管理に優れ、加工機能・物流機能を備えた競争力の高い中核拠点を目指します。具体的には、市場取扱数量が安定的に確保されていること、加工食品の取扱いが増加し新たな収入源が生まれていること、物流中継拠点として機能し集荷力・販売力が向上していること、市内・国内だけではなく全国展開や輸出にも対応できる市場となっていることです。以上の目標を達成するために、食品産業の集積による民間投資の促進、高付加価値化による場内事業者の稼ぐ力の向上、コールドチェーン化による食の安心安全の信頼性を確保し、収益性の高い選ばれる市場を目指します。最後に下の部分になりますが、実現に向けた連携・基盤づくりとして、収益性の高い選ばれる市場を実現するためには、開設者が進める施設整備だけでなく、市場関係者同士の連携による共同出資、事業継承、新たな事業への参画や投資、生産者との連携強化、小売・外食事業者との連携による販路拡大など、市場全体で一体となって取り組むことが重要になります。現状の取り組みおよび静岡市中央卸売市場の目指す姿の説明は以上となります。なお、事業の実現性を踏まえ、静岡型フードプロセスシステム基本構想は今年度中の策定を予定しています。説明は以上です。

【佐藤議長】

はい、ありがとうございました。さて、ただいま令和9年度事業計画の策定に向けてということで説明をいただきました。委員の皆様方のご意見いただきまして、今後の事業計画の参考にさせていただきたいと思います。皆さんいかがでしょうか。押尾委員いかがですか。

【押尾委員】

方向性、市場の目指す姿を説明いただきましたが、具体的に何年度までにどの程度達成されるというような期間的な目標や数値的な目標があれば、ご教示いただきたい。

【事務局 飯田主査】

今、市全体として取り組んでいる静岡型フードプロセスシステムという基本構想自体は、今年度策定予定です。その後、その構想を踏まえた上で、市場の再整備をどうしていくのかという検討になっていくと考えています。

【押尾委員】

そうすると、具体的に加工機能の強化やコールドチェーン化などを、例えば令和何年度までに実現するという明確な、時限的な目標というものはまだこれからということですか。

【事務局 飯田主査】

そうです。今、現段階でフードプロセスシステムの構築に向けて、例えば、加工において、病院やスーパーなどのバックヤードで一次加工を必要としているかなどの需要調査を行っています。また、内部でも、場内事業者が加工・物流についてどういった対応を考えているかというような意向調査を行っています。そういった調査を踏まえた上で、このフードプロセスシステムの構築に向けて動いていますで、そこを踏まえた上で加工機能・物流機能の検討のフェーズに移るという形になるかと思います。

【押尾委員】

わかりました。需要調査がなされている段階だということですね。加工機能の強化などはすごく魅力的かとは思いつつも、民業圧迫的なところもございますし、また設備投資や人手の問題などかなり大きな問題もあるかと思います。そこで、ロードマップ的なものですね、需要を踏まえて、いつぐらいまでにこれを一つずつ進めていくというようなものが示されますと、一般の消費者をはじめ、関係各位の方のご理解が深まるのではないかなと思いましたので、発言だけさせていただきます。

【佐藤議長】

他いかがでしょうか。

では、非常に基本的なところをお伺いします。この静岡型フードプロセスシステム構想は、農業、水産業、畜産業あらゆるものを含むのですか。それとも、農業が基本なのですか。

【事務局 飯田主査】

基本的には農業を生産として扱っている状況になりますので、農業政策課、市場、学校給食課、産業政策課で動いているという状況です。

【佐藤議長】

図を見ました時に、非常に曖昧な定義の仕方というか、水産業が本当に入るのかどうするのだろうか、捉え方が曖昧ではないかと思いました。ただ、これを見て、中央卸売市場がこの流通の中にしっかりと入り込んでいることにはとても安心します。

他にご意見ご質問いかがでしょうか。杉田委員、赤井委員から、今後の市場に向けてということで、委員の皆様にお伺いしたいことがおありだったと思います。

【杉田委員】

先ほどの説明にもありましたが、開放型の市場ということで小学生や一般の方を対象にいろんな方にこの市場を見学してもらっていますが、出荷者さんとか消費者さんが市場に何を求めているのかをお聞きしたい。普段はたぶん意識しないですよね。出荷する時にこの市場だからと

か、そういう選別はあるのですか。また、消費者さんも、この市場の情報はたぶんスーパーには一切ないですよ。生産者の顔は最近少し見られるようになってきましたが、この市場から出荷されていますという情報は載っていないのではないのでしょうか。一般消費者は何を求めているのか。一般消費者が求める市場が必要であるかと疑問に思うところもありますが、もし何かご意見があれば聞かせていただければありがたいです。

【佐藤議長】

一般消費者ですか。

【杉田委員】

そうですね、開放型市場と謳っていますので。ただ、一般消費者の方というのは普段あまり市場を意識していないとも思いますが。

【佐藤議長】

これはやはり実需者という形で小売店だとか、外食産業、そういう方たちも含めて考えた方が、いろいろな意見が出やすいのではないのでしょうか。一般消費者というように言われると、たぶん意識しないのではないかなと思います。いかがでしょう。

【季高委員】

こちらは、生産関係、出荷団体になりますので、市場との付き合いは非常に重要視しています。大量で販売していただきますし、それから産地を作ってくれるということで、昔はいろいろと話をしながら、品目を判断してもらったりしていました。集荷はいろいろ手間もかかる面もありますので、そこを肩代わりして販売していただけるということも非常に大事です。また、何しろ産地と市場と密接に関係するということは、販売網の構築に非常に重要です。産地側としてはそういう市場を大事にしていきたいです。

【佐藤議長】

産地の方は出荷者として非常に関係が深いのですね。具体的にどんなことを望んでいらっしゃるのですか。価格形成ですか、それとも販路をしっかりと売っていただくことですか。

【季高委員】

やはり販売販路の確立と価格面、その両方ですね。

【佐藤議長】

今、委託と買取りとどちらが多いのですか。

【関原委員】

青果は圧倒的に委託です。

【佐藤議長】

委託ですか。それではやはりしっかり売っていただきたいということですね。

【季高委員】

以前、経済連にもいましたが、市場との関係は重要視していました。

【佐藤議長】

消費者側、あるいは小売店側としてはいかがでしょうか。

では、私から、おそらくということでの話なのですが、実需者側としては、欲しい商品を迅速に効率よく入手したい。これがたぶん一番だろうと思います。であれば、市場は何をしなければならないかという、まずはその消費者のニーズ、需要動向というものをしっかりと把握する。そして、多種多様な品揃えというものを実現しておくということ。そして、適正な価格形成を市場内で行い、取引を行う。それから、品質です。商品の高い品質というものを維持して安全性を保証することは、市場にとって非常に大切です。市場に限らず、製造業にしろ、サービス業にしろ、その取り扱う製品の品質、これをきちんと維持していくということはビジネスの基本だと思います。ここが揺らいだとか、欠損するようなことがあれば、信頼がそもそもなくなっていく。そして、商品の品質を保つということと、加えて実需者にとって利便性の高い方法で商品をお届けする。その時に、資料に書かれている加工であるとか、物流、それから保管業務ということ。今、この保管業務というものが、意外とこれから大事だと個人的には思います。この前サイバー攻撃を受けたニチレイが、実は製造だけではなく、保管業務、倉庫業をしっかりとやっていたということが明らかになって、そういう目でまた新たにその企業を見たということもありました。要は、市場内を商品が通るだけであれば非常に利益率というものは低いのです。その通る量が多いときは、まだまとまった利益が得られていましたが、通る量がだんだん減っていき、こんにちにおいてはもう利益率を高くしていくしか方策がないわけです。そういった意味で、いろいろな付加価値をつけるということで、加工であるとか、保管業務あるいは共同配送で実需者の利便性を考えるという一体化したビジネスモデルというものが、これからの市場なのだろうと思います。常に実需者側の立場に立って、何が利便性を高めていくのかという発想を持つことが大事なのかなと思います。スーパーや小売店の仕入れ部門を実は仲卸さんが担っているという話を聞いたこともあります。あと、産地情報をしっかりと届ける。そして、実需者側の相談に乗ってあげる。こういったことも大事。情報を届ける、産地情報を持つということは市場の一つの強みであると思います。そういったものをしっかりと相手側に届けて、経営の相談に乗って、絆を強くしていく。これが市場側のやるべきことなのかなと思います。また、出荷者側というのは、先ほどありましたように、やはり適正な価格形成と、しっかりと販路を確保できること。これが一番の望みな

のではないかというように思います。

赤井委員からも、夢のような話でもよいので聞いてみたいということがおありだったと思います。

【赤井委員】

市場の中が今非常に暗くなっています。やはり、市場を使っていただく方が少なくなってしまったことに尽きるのですが、市場を動かしているのは市場の仲卸であったり、卸であったり、市の方なのです。今日この資料を見て、すごくよい計画を立ててくれていると思うのですが、このようなことは10年、20年前に考えられているのです。しかし、結局やろうやろうと思って今まで来てしまっていて、きっとこの後10年、20年できないというスタンスで考えてしまいます。もっと夢のような市場だったり、食のベースだったりというものがあれば、そこに希望が持てると思います。つくるものを決めて、予算を決めて、予算がそんなにないと削って、いやそれはやめようというような繰り返しではないかと思っていて、実現する力を持つには、やはり売上を上げることや、ここに携わっている人をたくさん増やすことなどが需要だと思います。また、本日、消費者協会の松永委員が来てくださっていますが、消費者の絶大な支持がある市場になるということで、あそこを外しては市民には荷物が届かないみたいな、そういう強い市場になりたいと思っていて、夢みたいなのというのはそういうことです。カット野菜であれ、冷凍野菜であれ、加工食品であれそうですが、できるだけ業者を集めて市場内に入ってもらい、一般消費者の方に入ってもらい、勉強会をやるなどでどんどん関係者を増やしていくということが必要ではないかと思います。この計画は本当にすごい計画ではあるが、先ほど佐藤議長がおっしゃったように流通業は本当に利益が少ないです。その中で、人件費がまた上がって、袋代が上がって、運賃が上がってと継続してマイナス要因しかないのです。だから、やはり希望を持てるような市場に、夢みたいなのというのはそういうことです。すごく理想的ですごくよいのですが、これが何年でできるのだということを決めてほしい。本当に今回のこの会議は、この資料が出ただけですごいとは思っています。これを現実化していく、皆さんで速度を速めてやっていきたいと思っています。

【松永委員】

私の主婦としての意見や、消費者協会の仲間で話をする中でということで意見を言わせていただきます。どんなことを市場に求めているかということなのですが、やはり品質のよいものを安くということです。品質のよいものといってもいろいろあり、例えば新鮮なものであるとか、また、ここは地元なので、地元のものをということも考えます。それから、ここしかない、産地の本当の特産のもの。長田のももとか、庵原のみかんとか、いちごにしてもいろいろあります。高くても有機栽培のものに飛びつく人もいます。それから、安くて新鮮なものであれば形はどうでもよいという人など、いろんな人がいると思います。それから、買う場所なのですが、安いものは路地販売のものなどは100円出すとたくさん買えてすごいです。農協で出している直売所がありますが、あそこも新鮮で安くて買いやすいです。あと、スーパーで買えますが、この頃はやはり

人口減少で、食べる量も少なくなり、食材の量が少なくなっていると思います。宅配を利用する人がいたり、車を使える人と使えない人がいたり、車を使えない人は近所のスーパーが閉店することも多く、買えるところが少ないというように思っています。美味しい魚屋さんが閉店してしまい残念だという話も聞きます。あと、夢のような話でもとありましたが、以前市場まつりに参加させてもらった時、外ですごい大勢の方が待ってらっしゃったのです。あの方たちがみんな消費したら、費用も高かったのでしょうけど、儲かるのかなと思いました。やはり儲からなければ続かないと思いますので、もし法律的なことで問題がないなら、もう少し市場にああいうお客さんが来る機会を増やしていただければ、何かみんな一遍で楽しめるように思います。10人参加、20人参加ではなくて、何百人の人が市場のことを知ることができるのでよいかなと思いました。また、ニーズということで、よいもの扱えば、この市場に行けばこの商品が得られるというものが市民に浸透したら、高い儲けも結構出るでしょうし、そういうものならば続いていくのではないかと思います。

【佐藤議長】

はい、ありがとうございます。他にご意見いかがですか。

【折笠委員】

私、千葉や川崎の委員もやっておりまして、そういうところでもいろいろ聞いている話で少し申し上げます。産地が何を求めるかという結構シンプルで、高く売れる市場でかつ赤伝がないことなのです。なので、そういった意味では今回のこの機能自体はすごくよくて、市場の取り扱いが悪くて赤伝が発生する、例えばクレームが入り結局産地まで戻ってくるケースや、返品になりますとかマイナスになりますということをすごく嫌がるので、取り扱いがちゃんとされている所に出したいということです。あと、価格がつくためには、赤井委員がおっしゃっているように売れる市場でなければ価格がつかないので、売れる市場であることですが、もう一つは物流費なのです。産地が送った時の着値取引ですので、例えば、この市場に送るには1キロ当たり100円、この市場では200円かかりますという、産地側としては安いところに出せば利益は上がるのです。そうすると、物流がちゃんとしている市場というのは、今送りたい市場で、逆に物流がちゃんとしてない市場は隣に送ったら転送で引いてみたい話になりがちです。そういった意味では、この構想案、目指す姿の物流強化・流通強化というのは、非常によいアプローチかなと思っています。ただ、やはり赤井委員がおっしゃるように、何か飲食店とかもそうですし、直売所のコンサルなどもやるのですが、賑わいがあるというか活気があるところというのは、やはりいろいろなものが変わるのです。照明を増やすとか、何でもよいので明るい雰囲気はどうにかつくるようなことは、少し欲しいかなと思います。消費者につきましては、実は川崎の市場では再整備が決定して、そこにやはり消費者を呼び込む賑わい系のフロア、飲食店で消費者向けのフロアを設置しました。なぜかという、川崎の市場は結構消費者が来ていて、食堂街と関連事業者の買い物意外とあるのです。あの酒屋の酒が安いとか、何かお弁当に入れる仕切り紙は市場が実

は一番安かったとかもあって買いに来ていて、食堂街が大人気だったりするのです。そういったところでは、消費者との接点はそういうところに置くというのも一つです。ただ、直接的にたぶん市場がブランディングできるというのはもう築地、旧築地現豊洲ぐらいしかないですし、しかもその中でも築地というよりは、例えばやま幸のマグロみたいな、特定の取扱業者さんがブランディングしているに過ぎないのです。杉田委員がおっしゃるような、この市場だというブランドができて市場というのはたぶんほとんどないので、消費者に直接何かというよりは、飲食店や卸業者などを通じた形で消費者にメリットを出しつつ、市場の存在自体は飲食店とか関連事業者さんに頑張ってもらって、結果、あそこに市場がある、市場まつりに今度行こうぐらいになってくるのではないかと思います。ただ、リクルートの面では、今我々も一緒に取り組ませていただいて、新卒なり就職希望者がなかなか集まらない問題というのは、消費者というか市民にある程度ゲートを開いておかないと、市場が何をしているかわからないということになってしまいます。ですので、このフードプロセスの構想ができれば、例えば、食堂街に入れる、関連事業者は常に買い物ができる、2階に見学者通路があり市場の様子が見られるなど、加えて再整備で綺麗になるという、そこで働きたいというような感じになると思います。そこにたぶん赤井委員のおっしゃる活気があると更によいと思います。やはり、老朽化していて雰囲気は暗いと働きたいと思えないことも無きにしも非ずだと思います。そういった意味では再整備までもそうですし、再整備後もそうで、再整備までの間でも活気ということは、赤井委員の気持ちもすごくよくわかります。ただ、川崎も今結構大変で、再整備をする業者まで決めたのですが、決定後にもさらに物価が上がって、予算の関係でまだ本契約の締結まで移れない状態が続いています。先ほど赤井委員から決めてほしいとありましたが、早く決定しないと、たぶん先に送るほど高くなってしまいうので、早めにやった方がよいのではないかと個人的には思います。

【佐藤議長】

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【押尾委員】

話を聞いていまして、最近何か社会問題化している作物の盗難など、ああいうものを見るとこういう世の中はいやだなと思います。やはり、安心安全とか、生産履歴がはっきりするようなことを、消費者は求めているのではないかというふうに常に思っております。思い付きなのですが、新しい機能の追加というか、例えば防災、災害の時の備蓄品など、市場は物がたくさん集まっているというようなイメージがありますので、市民からしてみると何かあった時には、市場に行けば備蓄品があつて食料も困らない。また、いろいろな機能が備わっていて、安全な建物があるということであれば、市場の価値というか、イメージがよいのかなと思いました。行政の関係が一番大きいと思いますが、少しそういうものもご検討いただければありがたいなと思いました。

【佐藤議長】

ありがとうございます。他にいかがですか。

【杉田委員】

今、防災の話が出たのですが、一応協定は結んでいるのですよね。訓練もしています。ただ、機能するかどうか。実際、ここで震度6の地震が起きたとすると、電気がたぶん止まり、冷蔵庫が開けられない。シャッターも開かなくなってしまう。冷蔵庫が開かないということは出荷できない。常温で置けるようなものはできるかもしれませんが。

【押尾委員】

そこはやはり、行政の協力でインフラを整備していただけると市民としては安全で、何かあった時にはそこにちゃんと物があって、水があって、食べ物があってというようなイメージはすごくあります。

【杉田委員】

多少の飲料水は扱っているのですが、そういうものは供給できますが、生鮮品を供給というと難しいのかなと感じます。

【佐藤議長】

私も防災計画、災害時にこの市場の存在価値というようなものを発揮させるための計画が、しっかりとシステム化されていることが大事だろうと思います。これは市がやることだろうと思います。例えば、災害が起きたら、ここは生鮮食料品の流通の拠点であり、市の公設であるということも踏まえて、ここからしっかりと炊き出しの食材が出て行くというような計画、これを立てておくべきだろうと思います。今の冷蔵庫やシャッターが開かないことなど、現場の人たちが知っていることも踏まえて、実際に起きたらこの冷蔵庫は開放するというぐらいの区分けをして、マニュアル化しておくべきだろうと思います。今後、ぜひ市民をお願いしたいというところで、こういったことを明らかにすることによって、中央卸売市場が静岡にあるということの存在意義も上がっていくのだと思います。

他にいかがでしょうか。

【赤井委員】

今の佐藤議長のお話で、お米が困った時に備蓄米があるとか、災害時にトイレトペーパーが送れるというようなことを考えると、この市場にある程度の備蓄があってもよいのではないかと考えています。確実にキャベツ 100 ケースと大根 100 ケースはある、鮮度があるので難しい面もありますが、溜めておいてだめになる前に売るなど。この市場にはいつもキャベツが 100 ケースあるという枠を市の予算で確保するということは、きっとまだ他ではないと思います。そういう

市場なら、何かの災害時には、他の都市にキャベツ 100 ケースを一番に送ることができるというようなことも考えてみてもよいのではないかと思います。

【佐藤議長】

確かに、災害時に市場間ネットワークを使って、生鮮食料品の流通を行うという発想もよいですね。

【赤井委員】

たまねぎやじゃがいもなどは腐らないので、ある程度 100 ケースとか 1,000 ケースとか持ってもよいと思います。それを半月毎に出荷するような、入れ替えをしながらこの市場の中で確保できていけば、何となく税金を投入することも適っているのではないかと思います。

【佐藤議長】

日本は本当にどこで災害が起きるかわからないです。あちこちで起きているので、そういうものを見ると本当に市場間でネットワークを組んで、いろいろな食料品の供給を行っていくという発想のシステムをぜひ日本中で作っていただきたいなと思います。

他にいかがでしょうか。

【関原委員】

市場の役割というか、消費者の方に何を伝えるか、どのように伝えていくかということで、今どういう形でそれがなされているかといいますと、我々卸から仲卸さんに情報伝達をし、仲卸さんから量販店にいろいろな情報伝達をする。量販店は毎日お店で何がどのくらい出ているという情報をPOSでキャッチしているので、この時期はこれが売れて、これをここで特売を打とうとか、そういったことを計画します。そして、それが仲卸にフィードバックされて、卸に来て、あれが欲しいということで、今の流れで消費者に提供しています。直接消費者の皆さんの声を我々が聞いてということではないですけども、仲卸さんを飛び越えて、量販の方と産地情勢を、今年は大玉ですとか小玉ですとか、量が多い少ないですとか、いろんな情報を伝える中で、適宜特売等を入れていただくといったことが今行っている我々の仕事です。また、産地からすると、どういう市場を望まれているかという、折笠委員からあったように、高い市場、高く売ってくれる市場が望まれております。その高い市場のものが流れていくわけですから、安くなかなか売れないという現実があります。ただ、その中でお客様の要望にお応えして、仲卸さんと価格の苦言をしながら納入しているので、我々の手数料というのは、本当に微々たるものになっているといったところが現状です。

【佐藤議長】

保管についてどんなふうにお考えですか。

【関原委員】

いずれにしても、我々は基本在庫を持つということは、法令上できないわけです。即日販売をしてしまうというのが、一つのルールになっているものですから、保管するということはなかなか難しいと思います。

【佐藤議長】

生鮮食料品ですから、長くは保管できないということはあるのでしょうけれども、小売店側、スーパーさん側の仕入れた部分に関して、いろいろ調整をしながら、常に市場で保管業務をやっ
てあげるということは、利便性を高めていくということにはなりませんか。

【関原委員】

やはりお客さんの要望に応じて、可能な限りそのものの耐久性を見ながらですが、やはり生鮮食料品ではあり得ないと思います。たまねぎとかじゃがいもはまた別の話なのですが、青物野菜については、もう本当に1日が命というものもありますので、その時の出荷されたものの状況を見ながら、それに応じて我々は、とにかく全部販売してしまわなければ、翌日に残したら痛みで返品になりますので、販売をする。

【佐藤議長】

確かに、購入した量販店は仕入れたら新鮮なうちに売ってしまいたいというのが本音ですもんね。少し誤解をしていました。

【松永委員】

本当にこんなこと言ったら怒られてしまうかもしれませんが、間を通るとそこで利益がこうだんだん高くなりますよね。だから、真ん中の人がなくて、直接こう来てくれるともっと安くなるのではないかと思いますので、消費者としてはその方がありがたいです。いろいろな利点もあるので、すみません、価格のことだけで言わせていただきました。

【佐藤議長】

マージンをたくさん取られると、確かにそうですね。

幅広く実需者に対して商品を売っていく、たくさん売ることがまずは大事ですよね。そうでないと、たくさん仕入れられない。そういった意味で、とにかく幅広く実需者を確保して、そしてその要望に応え得る市場であるということが大事なのだろうと思います。ということは、やはり市場が一体化して、迅速にスピーディーに効率よく動いて、皆様でぜひこれを実現していただきたいなと思います。また、市場の中核機能というのはこの目指す姿にしっかりと書かれていて、これが実現していくことが今後の市場に非常に重要なことだろうと思います。この姿をいつ実現できるのか。確かに私も10年前から同じことをやってきたという思いがあるのですが、これに

ついては、市場長からぜひ伺いしたいと思います。市場の中で、現場で働く皆さんがモチベーション高く動ける、そういうやはり道筋を立てるということは非常に大事だろうと思います。いかがでしょうか。

【佐藤市場長】

皆さん、本当に貴重なご意見をありがとうございます。この場で、この市場の目指す姿、何年後に実現しますということは申し上げられないのですが、少なくとも、以前はこういう目指す姿というものもあまりなかった。先ほど赤井委員の方からも、これが出てきてというようなお話もいただいて、10年前にはもうできていた話、その当時のレベル感でもこういったものができたのかもしれないですけど、ペーパーとしては提供されていなかった。しかし、今回、10年経って、ペーパーがこういう素案ですと出来て、やっとなという感は否めないかもしれませんが、本当にあの進捗が遅くて申し訳ないですけれども、こういう形で少しずつではありますが進んでおります。我々もプロジェクトチームの中で目下やらせていただいておりますので、そのあたりはまた進捗ございましたら、都度皆様にお知らせをして、前向きに進めていきたいと思っております。今日のところはこのあたりでご勘弁いただければというところが正直なところでございます。

【佐藤議長】

はい、ありがとうございます。さて、そろそろ1時間半経とうとしていますが、ご意見まだございますか。

【赤井委員】

この構想はすごくよい計画だと思うのですが、ゴールを一遍につくるのではなく、例えば電気をLEDに変えるとか、消費者を1週間に1度入れようとか、少しの予算で少しずつ行かないと、きっとできないと思うのです。この前も市場まつりをどうするみたいな問題があり、毎回1万人も来てくれるのだからやろうと言っても、労働条件とか、経費とか、市の予算とか、事業者の予算とかでなかなか運営が大変で、先ほどの話ではないが夢を持てれば、一生懸命市場まつりも取り組めると思い、そのようなことをやっていってくればよいと思いました。構想全体では何十億、何百億円かかるかもしれないですが、給食センターを中に入れるとか、他の食品団体を入れるとか、何か少しずつでも動くような案があれば面白いのかなと思います。それと水産、やはり野菜だけじゃ弱いのです。静岡は海もあるので。この構想の中に水産が載っていないのは少し問題があると思います。一緒に、共通のところから問題を考えないとだめではないでしょうか。水産も関連も農産もみんな一緒の頭があって、下に分かれて行くのはよいですが、この構想は水産が配送のことぐらいしか載っていないので、そのあたりも踏まえて、やっていくとよいのではないかと思います。

【佐藤議長】

このフードプロセスシステム構想については、定義が少し曖昧ですね。どこまでの範囲を含むのかが、私もよくわからないという印象でした。

【事務局 飯田主査】

今のご意見に関して、確かに農業政策課が入っているということで、生産サイドではおっしゃるとおり農業というようなところなのですが、今需要調査を行っているのは当然青果だけではなく、水産としてのニーズがあるかというところもお聞きしています。また、場内事業者の意向調査に関しましても、仲卸の加工に関して、水産の事業者さんの意向も確認していますので、あくまで関連部署としましては農業政策課しか入っていませんが、食としては水産、青果両方とも検討しています。フードプロセスシステム構想が市の全体としての課題からスタートしており、その中で産業政策課、農業政策課、学校給食課、市場の分野が挙げられているということになります。

【佐藤議長】

では、次に進んで参りたいと思います。閉会の挨拶を市場長よりお願いいたします。

【佐藤市場長】

皆様、長時間に渡るご審議、本当にありがとうございます。今日、ご説明を申し上げました報告事項並びに皆様からご意見を伺う事業計画に関するフードプロセスシステム構想案、市場の目指す姿に関しまして、非常に有意義なご助言をいただきました。これらを、今後のプロジェクトチーム等の中で共有をさせていただきまして、この構想の中に溶け込ませるか、反映させるかといったところを順次検討を重ねていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。

【佐藤議長】

ありがとうございました。これを持ちまして、本日の議事を終了いたします。本日もたくさんのご意見を賜りまして、ありがとうございました。本日の会議の議事録署名人は赤井委員、杉田委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、赤井委員、杉田委員よりお願いいたします。

これを持ちまして、令和8年度第1回静岡市中央卸売市場開設運営協議会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

《閉会》